

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2年	2単位	選択
担当教員			
安部 恵美子・川原 ゆかり			

講義概要	<p>到達目標①から⑤を達成するための具体的履修内容は以下のとおりである。</p> <p>①保育職が携わるフィールド 保育者に必要な素養 子どもとの関係性構築の基本 保育者の素養に関する自己分析と評価</p> <p>②保育者資格の位置づけ 関連諸法令・規則「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」 保育職に関する国際比較</p> <p>③西欧や日本の社会的保育の歴史概説と保育の先達の業績 社会的保育発展の必然性 現代の保育制度や方法論への影響</p> <p>④子育て支援の場に求められる保育者の資質 新しい保育システムと保育者 保育者資格の高度化への対応</p> <p>⑤保育職の社会的地位評価 保育職の雇用の実態(身分・待遇・研修制度) 保育者のライフコース</p>
------	--

授業計画	<p>1 保育職の意義 保育者から見る保育の世界 子どもの目から見る保育の世界</p> <p>2 保育職の仕事と役割(1) 保育者の仕事とは、幼稚園教諭の仕事と役割</p> <p>3 保育職の仕事と役割(2) 保育前における保育士の仕事と役割 保育教諭の仕事と役割</p> <p>4 保育者になるための学び 教育保育を実践するものへの転換、保育者になるために</p> <p>5 保育の法体系と保育者の位置づけ(1) 国家資格としての保育者 保育者に関連する諸法令・規則</p> <p>6 保育の法体系と保育者の位置づけ(2) 保育者に求められる幅広い資質 現代の保育者に期待される役割 学生時代に学ぶことは何か</p> <p>7 職場で学びあう専門家として 保育者として働く 職場での学び 学び続ける保育者</p> <p>8 保育の法体系と保育者の位置づけ(2) 海外の保育・保育制度 スウェーデンの保育・子育て支援と保育者</p> <p>9 保育制度の変遷と保育者の先達 西欧の社会的保育の誕生期 ルソー ペスタロッチ フルーベルの思想</p> <p>10 子どもの育ちの危機と子育て支援 子どもの育ちが危ない 「子育て支援」と保育者の役割</p> <p>11 子どもの育ちの危機と子育て支援 「気になる子ども」と特別支援教育 「子育て支援」を考える視点</p> <p>12 保育制度の変遷と保育者の先達 わが国の近代化と保育制度の発展</p> <p>13 現代社会の変化と保育者の仕事や課題 増加する保育者の課題 国家政策の「子育て支援」と地域・家庭の教育力 「多文化共生教育(保育)」の必要性 これからの保育者に期待されるもの</p> <p>14 保育者の職務と生活 保育者の職務 保育の倫理 権利と研修 生涯の仕事としての保育者</p> <p>15 保育者になる人へのメッセージ 生活経験は職業教育につながっている 「人とかかわり」は、失敗から学ぶもの 学校生活は保育者になるための「宝さがし」 もっともっと輝きたい一まわりには役立つ情報がいっぱい</p>
------	--

授業形態	講義
------	----

評価の観点、評価手段・方法、評価比率	<p>①保育職の意義と役割に関する理解を深める</p> <p>②法的制度の中での保育者の位置づけを確認する</p> <p>③保育制度の変遷と保育者の先達の足跡を辿る</p> <p>④多様化する保育ニーズに対応する保育者の資質について考える</p> <p>⑤保育職の身分保障やキャリア形成について考える</p> <p>授業の1回目には保育者になるための自己評価に関するレポートの提出、4回目、8回目、12回目には、その段階までの授業内容に関する理解度の確認を行なう。到達目標の達成度を授業期間中に課したレポートや理解度点検シートで確認した後に、従業終了後の評価期間に総合的な評価を実施する。なお、レポートや理解度点検シートをすべて提出しなければ、総合的な評価を受けることができない。</p> <p>授業内レポートと理解度点検シート(50%)、総合的な評価(50%)</p>
--------------------	---

教科書・参考書	<p>教科書：『改訂 保育者論』 民秋言 編著 建帛社</p> <p>参考書：『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』</p>
---------	---

	学修の円滑な促進を図るために、課題ごとに必要な資料を作成し、授業時に配布する。 受講者は配布資料を学習課題に沿ってまとめておくこと。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業、会議、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	